

InterRisk Thailand Flood Report <2022 No.08>

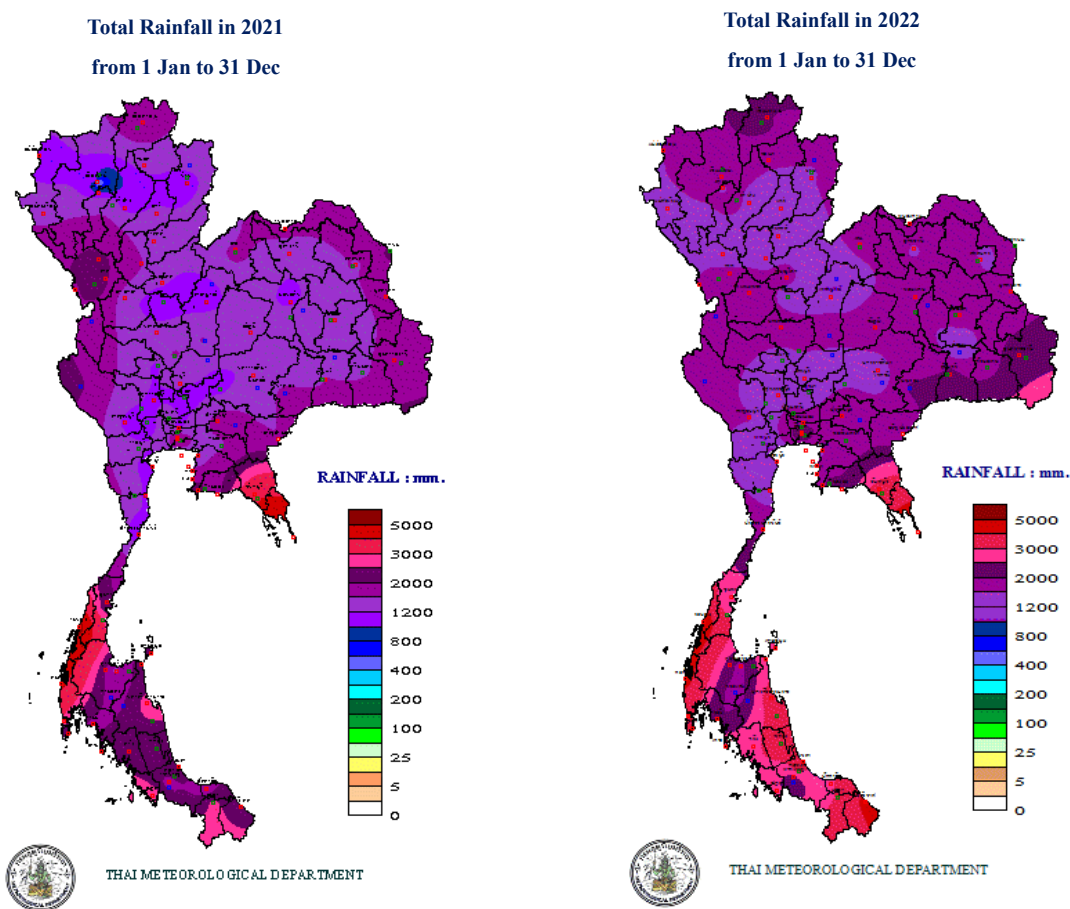
タイの洪水情報

[概要]

- 今年の雨期入りは例年通り 6 月頃と予測されています。
- ラニーニャ現象の影響が低下しエルニーニョの影響が高まることが原因で昨年と比べて降雨量は少なくなるとが予想されます。その結果、今年から来年にかけて干ばつの影響が大きくなる可能性があります。
- Sirikit ダムと Bhumibol ダムの 2022 年度末の貯水量は大洪水が発生した 2011 年と比べて大幅に低下しています。一方、Pasak Dam と Kwaenoi Dam の貯水量は 2011 年に近いそれ以上ですが現時点で洪水を懸念する情報はありません。
- チャオプラヤ水系の主要河川・運河では現時点で洪水が懸念される状況は見受けられません。

降雨量

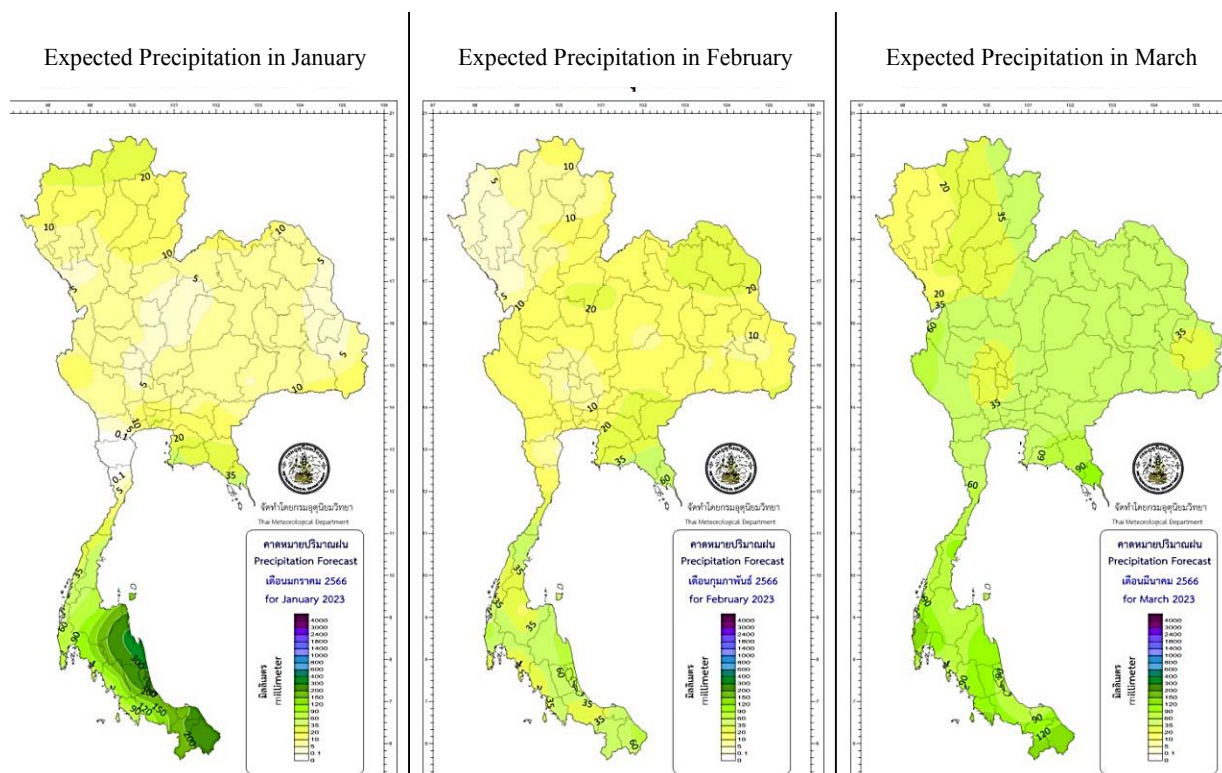
下図は累積降雨量（左図：2021年1月1日～12月31日、右図：2022年1月1日～12月31日）を示しています。2021年と比較すると、2022年は全国で総降水量が多く、特に南部、北東部、北部、中央部の地域では洪水の主な原因となりました。



天気予報

気候変動と農業の専門家である カセサート大学の Witsanu Attavanich 博士によると、今年はラニーニャの影響は少なくなる一方で、2~4 月頃よりエルニーニョの影響が大きくなり 2023 年末には支配的になるとのことです。その影響によりバンコクと周辺の県および東部・西部地域では、2 月にかけて例年よりも寒くなると予想されています。また乾季の降水量は昨年比で少なく、雨季は例年通り 6 月頃から始まると予想されています。

灌漑エリアでは干ばつの影響は限定的ですが、それ以外のエリアでは影響を受ける可能性があります。ただし現時点での水系全体での水量は貯水容量の 80%超と充分とされています。



米海洋大気庁（NOAA）気候予測センターが発表している海洋ニーニョ指数（ONI）は、下の図に示すように、ラニーニャが 2021 年 1 月から現在まで影響が多きことを示しており（青字の数字）、これが 2022 年に降雨量が増えた主な原因であることを示しています。¹

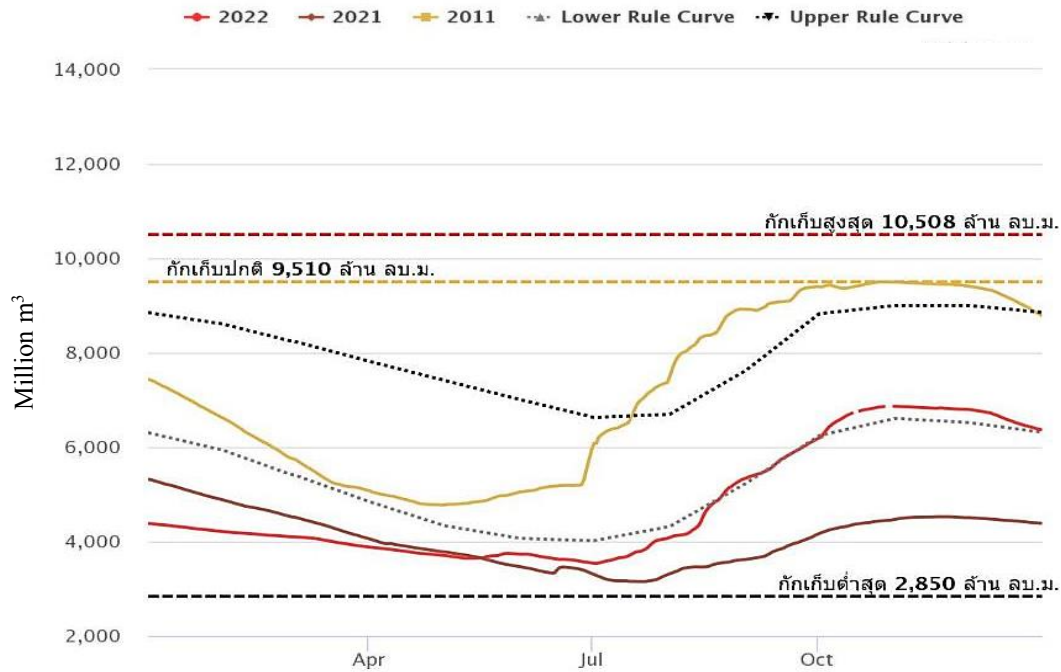
Year	DJF	JFM	FMA	MAM	AMJ	MJJ	JJA	JAS	ASO	SON	OND	NDJ
2020	0.5	0.5	0.4	0.2	-0.1	-0.3	-0.4	-0.6	-0.9	-1.2	-1.3	-1.2
2021	-1.0	-0.9	-0.8	-0.7	-0.5	-0.4	-0.4	-0.5	-0.7	-0.8	-1.0	-1.0
2022	-1.0	-0.9	-1.0	-1.1	-1.0	-0.9	-0.8	-0.9	-1.0	-1.0	-0.9	

¹ https://origin.cpc.ncep.noaa.gov/products/analysis_monitoring/ensostuff/ONI_v5.php

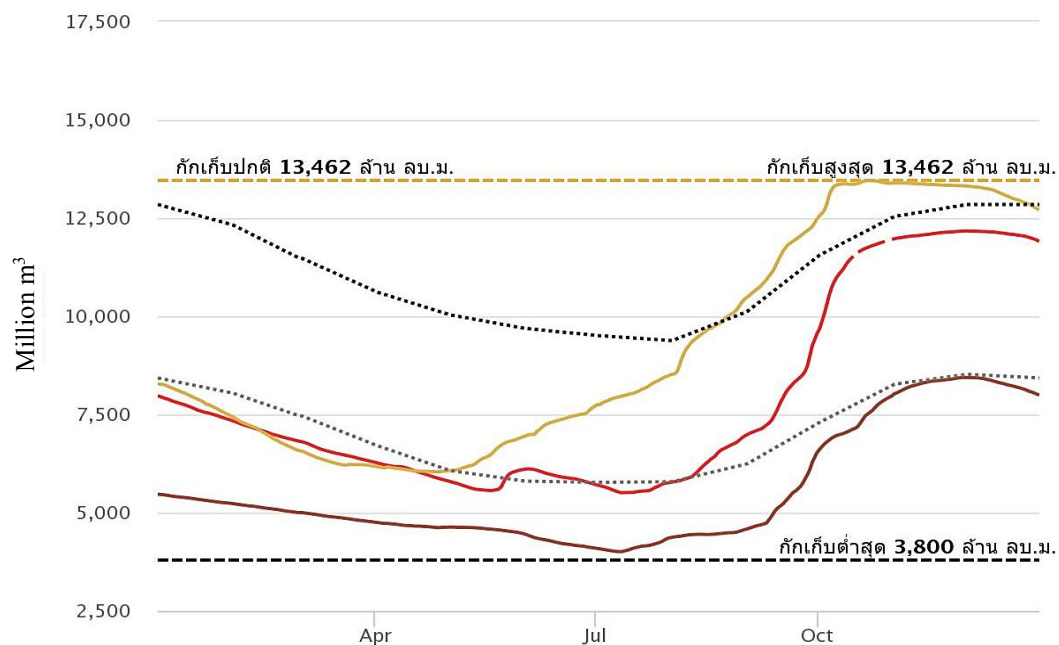
平常時よりも摂氏 1 度以上低い状態ではラニーニャ、1 度以上高い状態ではエルニーニョとされる。

ダム貯水量 (Sirikit ダム、Bhumibol ダム)

貯水量 : Sirikit ダム (2022 年 12 月)



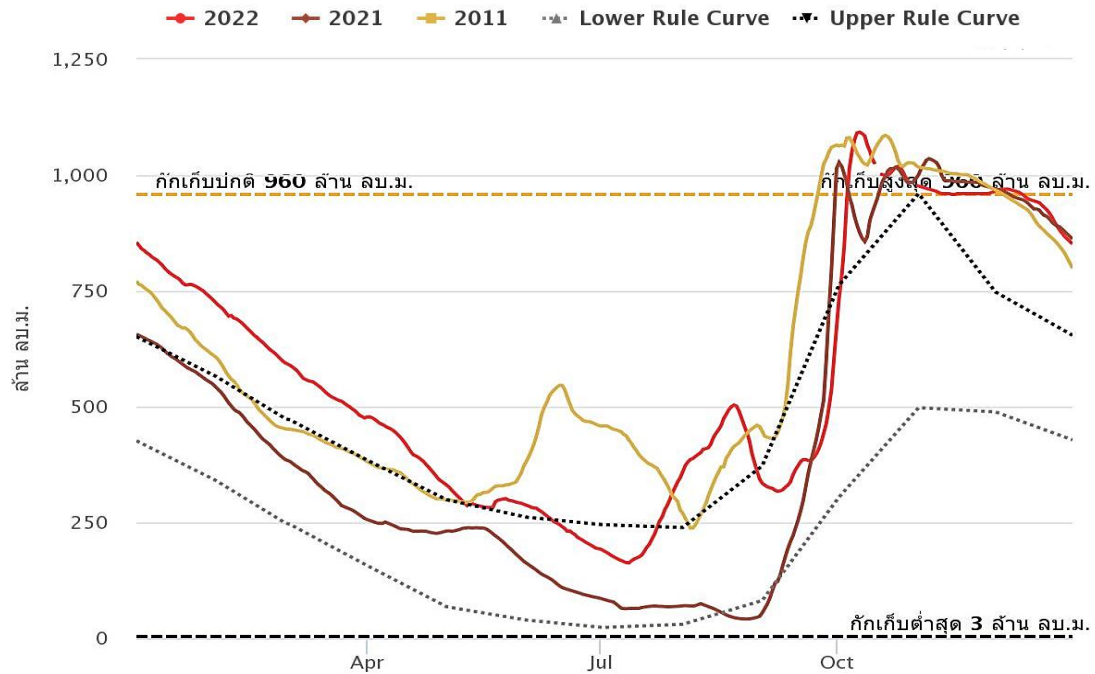
貯水量 : Bhumibol ダム (2022 年 12 月)



2022 年の Sirikit ダムと Bhumibol ダムの貯水量は 2021 年比で大幅に増加していますが、2011 年比では貯水量は大幅に低下しています。

ダム貯水量 (Pasak ダム、Kwaenoi ダム)

貯水量 : Pasak ダム (2022 年 12 月)



貯水量 : Kwaenoi ダム (2022 年 12 月点)



2022 年の Pasak Dam と Kwaenoi Dam の貯水量は 2011 年よりも多くなっていますが、現時点で洪水が懸念されるという情報はありません。

チャオプラヤ水系の河川水位（チャオプラヤダム上流）

雨季が終わってから 約 2 か月が経過し、Ping 川、Wang 川、Yom 川、Nan 川の水位は低くなっています。チャオプラヤダム上流のチャオプラヤ川の水位も堤防より大幅に低くなっており、チャオプラヤダム上流の河川において洪水危険はありません。

チャイプラヤ川の水位

2023 年 1 月 25 日



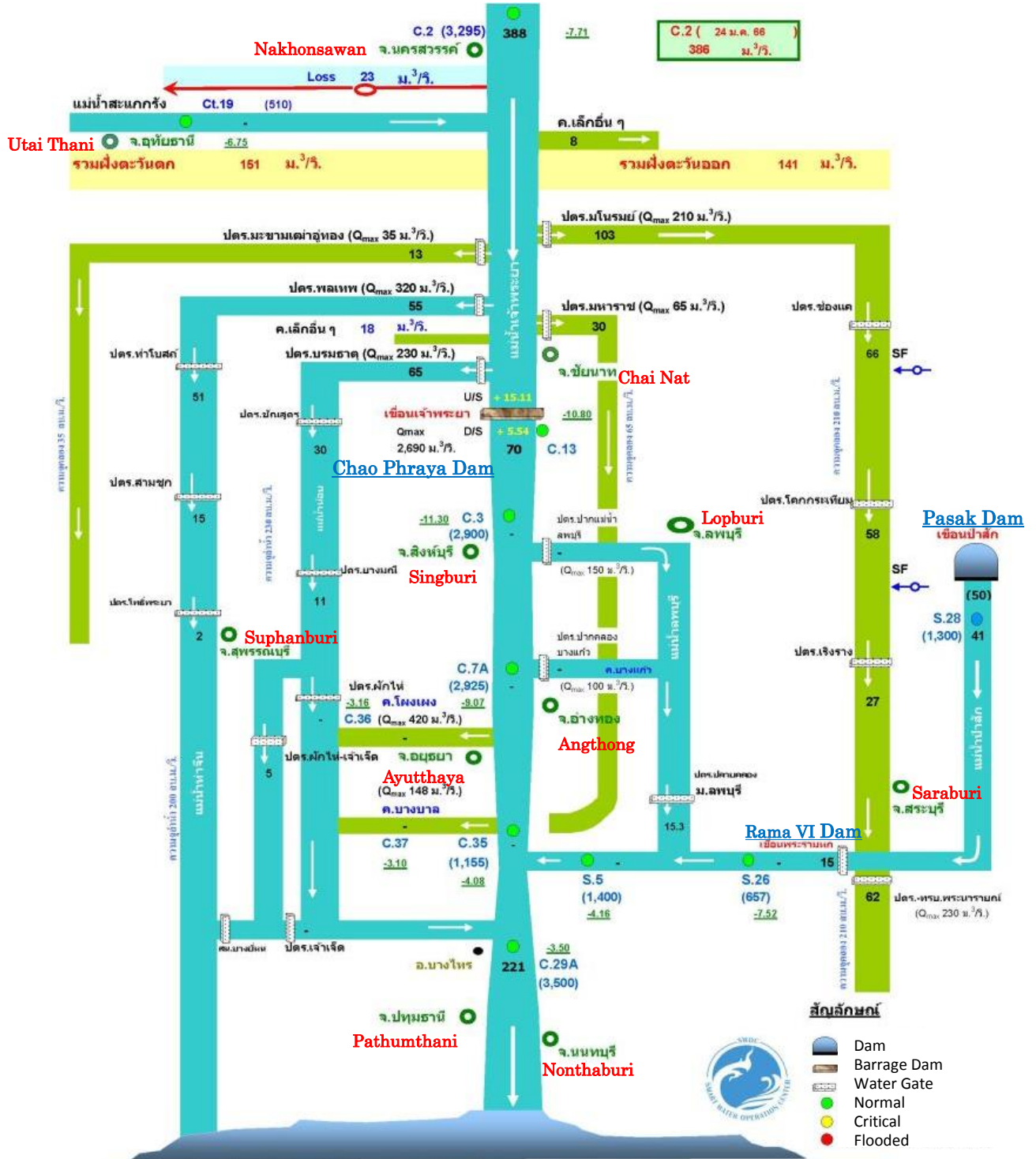
【備考】

- ① 河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量（ m^3/sec ）、カッコに示されている数値：河川流量（ m^3/day ）
- ② 緑文字・+（プラス）－（マイナス）付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離（0 になった場合、洪水が発生）
- ③ 水位レベルの U/S、D/S は m. で表示されています。

チャオプラヤ水系の河川水位（チャオプラヤダム下流）

チャオプラヤダム下流の状況はチャオプラヤダム上流と同様です。川の水位は堤防よりも低く、洪水危険はありません。

チャイプラヤ河川水位（2023年1月25日）



【備考】

- ①河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量（ m^3/sec ）、カッコに示されている数値：河川流量（ m^3/day ）
- ②緑文字・+（プラス）－（マイナス）付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離（0 になった場合、洪水が発生）
- ③水位レベルの U/S、D/S は m. で表示されています。

参照

<http://www.arcims.tmd.go.th/dailydata/yearRain.php>

<http://water.rid.go.th/flood/flood/daily.pdf>

https://origin.cpc.ncep.noaa.gov/products/analysis_monitoring/ensostuff/ONI_v5.php

<https://www.komchadluek.net/news/society/538880>

https://www3.tmd.go.th/media/forecast-threemonthcountry/newsjfm_2023.pdf

<https://www.thaiwater.net/water/dam/large>

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_up.php?cal2=25012023

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_low.php?cal2=25012023

MS&AD インターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。タイ進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等はお近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&AD インターリスク総研（株） 総合管理部 国際業務グループ

TEL.03-5296-8920

<https://www.irric.co.jp/>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.

175 Sathorn City Tower. South Sathorn Road.Thungmahamek. Sathorn. Bangkok 10120. Thailand

TEL: +66-(0)-2679-5276

FAX: +66-(0)-2679-5278

<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。

また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研株式会社 2023